

平成28年度「災害廃棄物対策演習・図上訓練」を実施 ～災害廃棄物四国ブロック協議会～

中国四国地方環境事務所では、平成26年に四国4県・政令市・被災が想定される各市、民間団体、国の機関等を構成メンバーとして標記協議会を発足させ、この先30年以内に発災が予想される「南海トラフ地震」の災害廃棄物対策について情報共有を行うとともに、発災時の廃棄物対策に関する広域連携を深め災害に備えることとしている。

具体的な活動としては、協議会（幹事会含む）、セミナーの他に、自治体担当者を主体に処理手順（発災～分別収集運搬～中間処理～最終処分）について確認を行うための図上訓練を平成27年度に実施した。28年度においては、去年の経緯を踏まえ課題解決に向けた演習に注力し、練度を高め、参加者及び所属自治体における人材育成への活用を図るための訓練を実施した。本稿ではこの訓練内容について報告したいと思う。なお、中国四国地方環境事務所では、10月にも中国ブロックで同様の取組を実施している。

本年度の訓練概要は以下のとおり。

1. 全体スケジュール

○（1日目：11/7（月））

- 13：00 ■ 熊本地震の被災地域支援活動に対する環境大臣感謝状授与式
- 13：10 ■ 演習（災害廃棄物発生量推計） ※電卓を使用
- 15：40 休憩
- 15：55 ■ 災害廃棄物処理の補助金査定について
※中国四国地方環境事務所より説明
- 16：40 ■ 図上訓練（2日目）の事前説明
- 17：40 終了

○（2日目：11/8（火））

- 9：00 ■ 図上訓練①（初動期の対応）
- 12：00 昼休憩
- 13：00 ■ 図上訓練②（仮置場設置の検討） ※電卓を使用
- 14：35 休憩
- 14：50 ■ 振り返り検討
- 15：20 ■ 有識者講評，参加者アンケートの記入
- 16：00 終了

2. 訓練初日

冒頭、4月に発生した熊本震災にかかる災害廃棄物処理にあたり、支援をいただいた自治体へ環境大臣からの感謝状授与を行ったのち演習を開始した。

まずは、南海トラフ地震・津波災害を想定し、発生する廃棄物の推計を参加者全員が行った。推計の方法は開催地である高知県の「高知県災害廃棄物処理計画～市町村災害廃棄物処理計画策定の手引き」及び環境省の「災害廃棄物対策指針」等に基づく原単位を参考

に電卓を使用して行ったが、実際に初めて計算をした方もおり、さらには普段使い慣れない単位、品目別の発生比率、仮置場の必要面積など、推計にとまどうことが多々あり簡単には算出できないことが実感できた。また、現実に発災した場合には、今回の条件のような情報が整っていることはあり得ず、規模・時期・時間・天候等により単一的には推計できないことから専門家と共に推計することになると思慮されるが、自身の感覚を磨いておくことは作業の効率上重要であり有意義な経験であったと思われる。

そのうち「災害廃棄物処理補助事業」について中国四国地方環境事務所担当者から制度の概要や注意点等を説明し、翌日の演習に向けてコントローラー（三菱UFJリサーチ&コンサルティング）から事前説明が行われた。



< 訓練初日：災害廃棄物の発生量推計演習 >

3. 訓練2日目

南海トラフ地震の大規模災害を想定した図上訓練を実施した。

参加者は、所属自治体をベースに被災県・被災市・応援県・民間支援団体・災害対策本部（国）の各班に分かれ、昨年度の成果である手順書のみ使用（シナリオは非開示）する状況で、それぞれの立場で付与された課題について協議・検討し、判断した結果を関係者へ情報提供するとともに共有を図った。

なお、各班の間はホワイトボードで仕切り、情報伝達は携帯電話とFAX（実際には受信BOXを設置し、事務局が運搬）のみを用いるという状況を設定し臨場感を持たせると共に、参加者自ら役割分担を担う参加型の訓練とした。

(1) 初動期の対応

発災直後の初動期の対応としては、災害廃棄物処理の組織体制の確立（被災自治体との連絡体制、広域支援本部と現地の連絡体制、情報収集員の配置など）を行い、続いて～被災状況の把握～仮置場に関する初期対策～民間事業者への処理委託～などの課題について各班で協議・検討を行った。その後は、廃棄物発生量の推計値（シナリオ概算）を基に災害廃棄物処理実行計画の策定の流れを確認した。

また演習の途中で手順書にはないアクシデント（課題）を付与したところ、各々の班内で知恵を絞りつつ課題解決に向けて熱心に議論し、判断されていた。

(2) 仮置場設置の検討

演習ではコントローラーが仮置場に必要な面積を示し、被災状況（道路の不通や処理施設の破損等）を勘案しつつ仮置場の選定作業を行った。ここでの課題は、単に必要な面積をカバーするのみではなく地権者の同意、仮設住宅との共有、長期に渡る使用期間の調整など解決すべき点は多いことから、意地悪な設定ではあったが選定作業中に地権者から使用を断られる場面も用意し（参加された方には申し訳なかったが）、苦慮する場面も設定させていただいた。しかしながら、付与された意地悪な設定にも負けず粛々とスマートに作業を続ける姿には感心させられた。やはり、日頃の業務体験をとおして習得された経験がこのような場面でも生きてくるものと思われ、災害の非常時においても的確な対応ができるだろうと心強く感じた次第である。



<訓練 2 日目：初期対策～仮置場の選定>

4. 今後に向けて

異常な天然現象を原因とする災害は近年、季節・場所を問わず全国で発生しており四国ブロックでは平成 26 年・27 年に水害による大規模災害が発生し、床上床下浸水などに伴う災害廃棄物処理が行われている。将来は、南海トラフ震災に伴う災害廃棄物の発生が予想されており発生量は過去に類を見ない量と思われることから、ブロックを超えた広域処理が必要になることは想像に難くない。その中で被災自治体をはじめ応援自治体及び民

間事業者を含む各機関が連携して初動対応を的確に行うことが、事後の災害廃棄物処理を効率的に短期間で終えることにつながる。本協議会では各自治体間及び民間団体との情報共有・連携を密にし、いざ発災の場合はこの連携を生かして取り組むため、今後も参画する各機関関係者との連携を深めていきたいと考えている。

最後に本訓練の実施にあたり、参加していただいた開催地の高知県・高知市をはじめ自治体関係者、産業廃棄物協会、有識者の各位及び請負者であり企画運営に尽力された三菱UFJリサーチ&コンサルティングの方々に感謝の意を添え報告とします。

中国四国地方環境事務所高松事務所

廃棄物リサイクル対策課 岡本裕行